

連合2013平和行動in長崎 「連合2013平和長崎集会」

8月8日(木)15時から長崎県立総合体育館・メインアリーナにおいて、国内・海外から約3,300人の参加のもと、「連合2013平和長崎集会」を連合主催、原水禁・核禁会議共催、後援8団体(長崎県、長崎市など)により開催しました。



連合本部古賀伸明会長は、主催者代表挨拶として「2015年NPT再検討会議に向けてさらなる核軍縮の前進を目指し、運動を強化していく必要がある。」と述べました。また、来賓として、長崎県中村法道知事、

長崎市田上富久市長、国際労働組合総連合(ITUC)副書記長室業務担当イザベル・ホファリンさんからそれぞれご挨拶をいただきました。



古賀連合会長



中村長崎県知事



田上長崎市長



ITUC
イザベル・ホファリン

第1部「2015NPT再検討会議に向けて」では、長崎大学核兵器廃絶研究センター広瀬副センター長より「2015核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議へ向けた課題と対応」と題し、NPT2015年再検討会議の意義などについてご講演いただきました。

広瀬副センター長



長崎平和推進協会 奥村様



連合長崎女性委員会
白倉委員長

第2部「次世代への継承」では、長崎平和推進協会継承部会の奥村アヤ子さまより、爆心地から500mの所で8歳の時に被爆した体験をお話いただきました。その後、平和広島代表团(代表：連合広島石井一清会長)よりピースメッセージ、高校生平和大使より報告と決意、組合員とその家族による構成詩(歌と朗読で物語を構成)に続き、白倉あけみ女性委員会が「ナガサキからの平和アピール」を読み上げ、満場一致で確認されました。



平和広島代表团



高校生平和大使

ナガサキからの平和アピール

一瞬にして、7万4千人余が息絶え、7万5千人余が傷ついた、原子爆弾が長崎に投下され今年で68年目を迎える。かろうじて生き残った人々も、今もなお放射線障害に苦しんでいる。今日、核兵器はいまだに世界に約1万9千発も存在し、人類は、核兵器の脅威にさらされ続けている。

近年の核兵器を巡る状況は、「核兵器なき世界」に向けた最終文書が2010年5月のNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議において全会一致で採択されるなど、削減・廃絶に向けて一定の道筋が示された。2010年9月に日本と9カ国が立ち上げた軍縮・不拡散イニシアティブ(NPDI)は、核兵器保有国に対し「核兵器のない世界」に向けた現実的な提案をし、核軍縮進展に向けて取り組んでいる。

また、2013年5月の2015年NPT再検討会議第2回準備委員会において、日本はNPDI諸国と共同で核兵器の役割低減など新たな作業文書を提出している。この議長まとめには、国連安保理決議違反として、北朝鮮による核実験・ミサイル発射を強く非難し、遵守を求めることが反映された。日本は原爆が投下さ

れた唯一の被爆国として、国際会議における核軍縮決議の提出や、包括的核実験禁止条約の発効を促進している。

被爆者支援では、いまだに被爆認定などの問題が残されており、国としての援護施策のさらなる充実が必要である。連合は、科学的な根拠が明らかになった場合に、必要な援護策を講じることを求め、被爆体験者への援護施策の充実や被爆二世、被爆三世の健康課題に向けて行動する。

連合、原水禁、核禁会議の3団体は、核兵器を保有する国の駐日外国公館に対して、「核兵器廃絶」に向けた要請行動を昨年に引き続き展開している。さらに、核兵器の恐怖を伝えるために、全国で原爆展も開催している。核兵器による悲惨な被害が二度と起こらないように「核兵器の実験中止」、「核兵器廃絶」に向けて、今後も世界に向けて強く広く働きかけを続けていく。

私たちは、2015年NPT再検討会議に向けて、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざして、これからも国際労働組合総連合(ITUC)や、平和市長会議、広島平和文化センターをはじめ、多くのNGOとも連携し、職場や地域における核兵器廃絶運動を粘り強く取り組むことを誓う。

2013年8月8日「連合2013平和長崎集会」

アピール確認後、次の平和行動の地である根室へ平和の思いを託し、連合長崎森会長から連合北海道安田副会長へピースフラッグリレーを行いました。

〈構成詩〉

構成詩は、情報労連の仲間の協力をいただきながら12年目となり、世界恒久平和・核兵器廃絶への大きな思いを伝えました。



〈ピースフラッグリレー〉



「沖縄から広島」へ



「広島から長崎」へ



「長崎から北海道」へ

ピース・ウォーク

8月9日(金)14時から行われたピースウォークは、
連合長崎青年委員会・女性委員会メンバーによる「ピース
ガイド」の案内で、爆心地公園・平和公園の8箇所

のモニュメント・碑巡りを行いました。(参加者 約
450人)



万灯流し

8月9日(金)19時から、原爆殉難者慰霊奉賛会、
城山連合自治会と連携し、原爆犠牲者のめい福を祈る
万灯流しを行いました。全国から参加した組合員・家

族等が万灯に平和へのメッセージを書き込み、浦上川
に流しました。



「連合2013平和行動in長崎」に関わっていただいた組合員・家族の皆さんあり
がとうございました。皆さんのおかげで無事に終了することが出来ました。あり
がとうございました。

「すべての核兵器をなくし 世界の恒久平和を実現！」するためにこれからもよ
ろしくお願いします。

連合2013平和行動in長崎 成功に向けて!

◇「平和の泉(平和公園)」清掃

毎年連合長崎の平和ボランティア行動として、8月の平和集会の前段に清掃活動を実施しています。「平和の泉」清掃活動は核禁会議長崎県民会議が実施してい

ましたが、1999年から、連合長崎として引継ぎ、特に女性・青年委員会を中心に実施しています。

今年は7月27日(日)9時~11時まで約80人の参加で作業を行いました。



一生懸命清掃を!



参加いただいた仲間の皆さん

◇連合長崎平和キャラバン隊出発式

日本は世界で唯一の被爆国であり、その被爆都市である広島と長崎から恒久平和を願い、連合平和行動をより積極的に推進する第一歩として、8月4日に広島で開催される「連合2013平和広島集会」へ平和キャラバン隊を編成し、街宣行動を展開しています。このキャラバン隊の出発式を8月3日(土)の12:00からNTT

万才ビル駐車場で行いました。

〈キャラバン隊〉 小川 雅弘(青年委員会・基幹労連)
中村 修治(青年委員会・電力総連)
白倉あけみ(女性委員会・日教組)
山中 長枝(女性委員会・情報労連)
片岡 義人(自治労・都市交評)
入江 良美(連合長崎)



連合長崎 森会長の激励



連合長崎青年委員会中村事務局長の決意表明



出発を見送る参加者

◇万灯作成

平和行動で使用する万灯は、構成組織等にお願ひし、産別での作成、集合方式による作成を行っています。特に集合方式による「万灯作成」は、①次世代への継承、②親子のふれあいを目的としながら、家族参加によ

り実施しています。

今年の作業は8月4日(日)に長崎電気ビル大ホールで行いました。参加者の皆さんは、(公財)長崎平和推進協会 継承部会 池田 松義 様から貴重な被爆体験講話を聞くことも出来ました。



池田松義様



親子で作業中



参加した仲間の皆さん

連合2013平和行動in沖縄

沖縄の「慰霊の日」である6月23日(日)から25日(火)の3日間、連合長崎森会長を団長に総勢24人で、「連合2013平和行動in沖縄」に参加しました。

沖縄は、今から67年前、太平洋戦争の末期、沖縄に上陸した米軍と日本軍との「鉄の暴風」とよばれた激しい地上戦が行われた結果、20数万人の尊い命が犠牲になり、とくに民間人の犠牲者数は軍の強要による自決者を含め、軍人の死者をはるかに上回り、海と緑の自然豊かな島は、無残にも焦土と化しました。

沖縄の現状は、国土面積のわずか0.6%に過ぎない沖縄県に、全国の米軍基地の74%がいまだに集中しており、この米軍基地があるが故に起こる事件・事故

などで県民の生命と生活が脅かされています。

連合長崎からの参加者は、このような現実を目の当たりにする中で、「連合2013平和沖縄集会」、「米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本改定」を求める行動(集会・デモ行進)へ全国の仲間と参加し、米軍基地問題の解消をめざし、基地の整理縮小と日米地位協定の抜本の見直しを求めて、粘り強く平和運動を推進することを確認しました。

沖縄行動に参加されたみなさん大変お疲れ様でした、また参加させていただいた構成組織・各地協に対し心より御礼申し上げます。



沖縄行動参加者の皆さん



説明を聞く参加者

連合2013平和行動in広島

2013年8月4日(日)～6日(火)に開催された「平和行動in広島」には、連合長崎から宮崎事務局長以下17人が参加しました。

4日(木)は現地で結団式を行い、5日(金)は「被爆路面電車乗車学習会」、「ピースウォーク」に参加し、「核兵器廃絶2011ヒロシマ大会」「連合2013平和広島集会」に参加し、20時から「なくそう核兵器」、「世界に平和を」をスローガンに、原爆ドームを参加者で囲む「平和の光」行動で締めくくりました。最終日の6日(火)は「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」

(広島市主催)と連合長崎が1995年に寄贈した「長崎平和の鐘」の打鐘式に、参加しました。



広島行動参加者の皆さん



被爆路面電車乗車学習会の様子



長崎から持参した千羽鶴

中華人民共和国駐長崎総領事館への要請行動

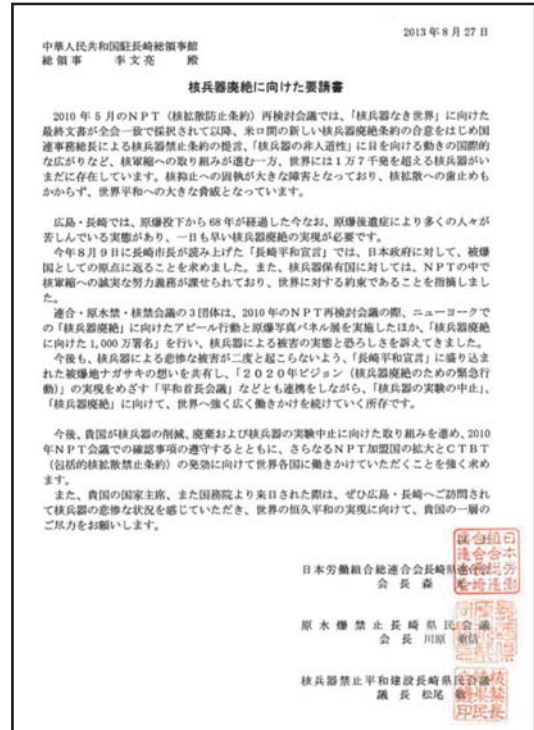
連合長崎は、長崎原水禁、核禁会議長崎とともに、「核兵器廃絶に向けた取り組み」として、中国総領事館(李文亮総領事)へ核兵器廃絶に向けた要請行動を行いました。3団体を代表して連合長崎森会長より李文亮総領事へ要請書を手交し、「核兵器の削減、廃棄および核兵器の実験中止に向けた取り組みを強化するとともに、貴国の国家主席等が来日された際は、長崎・広島へご訪問されて核兵器の悲惨な状況を感じていただきたい。」と要請いたしました。

要請を受け李文亮総領事は、「爆心地に近い総領事館として、被爆地長崎の思いはよく理解している。」で



写真右より、李文亮総領事、連合長崎 森会長、核禁会議長崎 松尾議長、長崎原水禁 坂本事務局長

きるだけの事を賛同し、みなさんと一緒に協力していきたい」と述べられ、核兵器廃絶に向けて共に取り組むことを確認いたしました。



第7回竹島の領土確立を求める集い

「竹島の領土権確立を求める集い」実行委員会(連合本部、連合中国ブロック連絡会、連合島根)は8月30日、島根県松江市で「第7回竹島の領土権確立を求める集い」を開催しました。全国から約120名が集い、連合長崎からも1名が参加しました。

冒頭、主催者を代表して連合中国ブロック連絡会の五十嵐美知義代表幹事代行は、「領土問題は相手国の挑発にのらずに慎重に解決しなければならない。日本の主張を世界に訴え、早期の解決を望んでいる」と述べました。また、連合本部山根木晴久総合組織局長は、「竹島問題には連合としても全体で取り組んでいきたい。本部としても、竹島問題に取り組むことを運動方針に掲げ取り組みを進めている。」と述べました。

第1部「島根県からの報告」では、「竹島問題」と島根県の取り組み」と題して、①島根県内における実施状況、②島根の教育で「竹島」扱うこと、③「竹島に関する学習」を進めるにあたって、という観点から、「地理」「公民」「歴史」という教科で竹島問題を扱っていること、「竹島・北方領土を考える」中学生作文コンクールなどを開催し意識啓発を図っていることなどの取り組みを

紹介いただきました。

第2部「竹島問題の最前線」では、「竹島問題を平和的に解決するためには、相手国が何を言っているかを分析し、それに正しく対応する知識が必要」と述べた上で、最近の新聞記事を中心に、江戸後期の絵図に竹島が収録されていることや、竹島周辺での漁労の証言や証拠など、歴史的根拠となりうることの紹介をいただきました。

最後に、集会アピールとして、「連合は引き続き、一日も早い竹島の領土権が確立されるよう、一層の運動を展開していく」と確認しました。





大丈夫、
何でも
話してください

いろいろな悩みで
押しつぶされそうになっていませんか？

大丈夫です。
何でも話してみてください。

あなたのとりに
私たち、産業カウンセラーがいます。

9月10日は
世界自殺予防デー

9.10世界自殺予防デー(WHO)
にあわせて「働く人の電話相談
室」を開設します。ご家族から
ご相談も受け付けます。

「働く人の電話相談室」

9 / 10 (火) 11 (水) 12 (木)

10:00~22:00



0120-583358

主催： JAICO 一般社団法人 日本産業カウンセラー協会

協力：日本労働組合総連合会（連合）

後援：内閣府／厚生労働省／中央労働災害防止協会

独立行政法人 労働者健康福祉機構／公益社団法人 全国労働基準関係団体連合会

日本産業カウンセリング学会／日本産業精神保健学会

公益財団法人 産業医学振興財団